1964年11月10日第3種郵便物認可　1966年4月5日国鉄首都特別扱承認雑誌2343号
1995年10月1日発行第32巻第10号通巻368号（毎月1日発行）
GARØ
10
ガ+月刊漫画+ロ
Monthly Eccentric Comix Magazine
GARO:/1995 October
680yen
特集
『ガロまんが道』
花くまゆうさく　逆柱いみり　東陽片岡　Jerry
古屋兎丸　杉作J太郎　津野裕子　み・うらじゅん
秋山亜由子　鳩山郁子　小野明弘+野口専二　久住昌之
大越孝太郎　根本敬　安彦麻理絵　三本義治　長井勝一
西岡兄妹　魚喃キリコ　蛭子能収
名作劇場42……ユズキカズ「シカゴパレス」
ガロっ鼻。……根本敬×バクシーシ山下
ねこぢる「ねこぢるうどん」黒川創
月刊漫画 ガロ
monthly GARØ eccentric comix magazine
特集『ガロまんが道』
1995 10
SEIRIN-DOH
青林堂

Monthly Eccentric Comix Magazine
GARØ No.368 1995 October

目次 CONTENTS

表紙・デザイン——羽良多平吉 & EDiX
cover graphix heiquiti harata, EDiX and associates
表紙・イラストレーション——古屋兎丸+東陽片岡+花くまゆうさく
cover illustration Usamaru FURUYA Kataoka TOUYOU Yuusaku HANAKUMA
表紙・写植印字——オギー写植
cover phototype-setting OGY

<巻頭シリーズ・男のイラスト>

花くまゆうさく

◆花くまゆうさくプロフィール ◆S42年7月26日生・東京都北区出身・血液型A・足立学園卒
◆趣味：日本映画・格闘技
◆愛読書：格闘技、プロレスの雑誌
◆過去の肉体労働と現在の座り仕事がたたって、腰と背中が病んで通院中。ハッキリいってヘルニアの一歩手前です。

大家さん

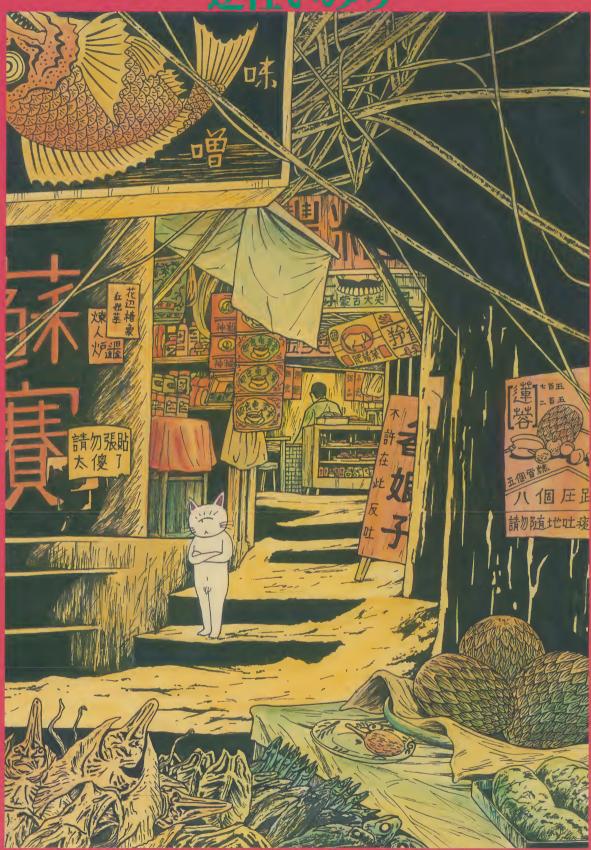
東陽片岡

◆**東陽片岡プロフィール**

◆S33年6月16日生・東京都板橋区出身 血液型O・多摩美大グラフィックデザイン科卒

◆趣味：オートバイにのってウットリすること。演歌を聴いてウットリすること。ホッピーを飲んでウットリすること。オナニーをしてウットリすること。

◆愛読書：エロ本、花村萬月さんの小説（自分が挿絵を描いてるから）。

◆寝た時にちゃんと夢を見て、ほいでもって起きた時に、その夢の余韻にひたってシミジミすることに、現在力を注いでます。

逆柱いみり

◆逆柱いみりプロフィール

◆S39年生・静岡県静岡市出身
◆趣味：海釣り鑑賞。
◆愛読書：川崎ゆきおのマンガ
◆瓜子兒皮擦屁股　能是能閪一手屎（ムリなことをするとかえってよくない）

JERRY

◆JERRYプロフィール

◆S41年12月８日生・長崎県長崎市出身・血液型O・大卒
◆趣味は特になし。

ガロまんが道

SPECIAL EDITION

漫画家を目指す人々、特にガロに狙いを定めて投稿する人々にお贈りする“ガロまんが道”。すでにその道を歩んでいる諸先輩の意見を参考にしながら、ガロを実験の場として大いに活用して欲しい。来れ新人、活動の場所はここにある！

◆投稿作家諸氏へ◆
投稿に当たっての重要事項

◆

私達は、常に画期的で面白い漫画の作品を待っています。
技術は未熟であっても、経験を重ねれば、進歩していくワケですから、
未熟は必ずしもハンディにはなりません。

◆

原稿料はお支払いできません。
非常に遺憾なことですが、
未だに原稿料が支払えないような状態が続いています。
なんとか正常化に向けて努力はいたしておりますが、
見通しはまだ先になると思います。
これは投稿される方にとっても重要な問題ですので、
じっくりと考えてから投稿すべきかどうか判断して下さい。

◆

さらに、判断した上で、
自分が投稿すべき雑誌が「ガロ」である必要があるかどうか、
再度考えて下さい。

投稿規定詳細は30頁をご覧下さい

30年前の「投稿規定」

投稿規定

① おもしろいこと。
② 内容第一。
（技術は実験、経験をとおして、おのずと進歩するものです）
③ 30ページ以内。
（1ページでもよい）
④ 時代もの、現代もの、ＳＦ、コマ画、その他自由。
⑤ 寸法＝タテ27.3センチ・ヨコ18.2センチ
（コマ取りは自由）
⑥ 必ずスミ１色（墨汁または製図用黒インキ使用）で画き、アミ（ウス色）はつけない。セリフなどの文字はエンピツでかくこと。
⑦ 〆切は毎月15日
⑧ 審査＝青林堂編集部、赤目プロ
⑨ 誌上に発表された作品には、原稿料を支払います。

●これは1965年11月号に掲載されたもの。

★我が『ガロ』は、東京オリンピックの年・一九六四年七月二四日、九月号が創刊号です。（一三〇頁で一三〇円）

創刊号からの連載には間に合いませんでしたが、白土三平先生の長編作品「カムイ伝」を連載するために創刊されたと言っていい『ガロ』には、もう一つ、新人漫画家の発掘と育成という明確なコンセプトが存在しました。この辺りの時代背景や証言はいろいろ語られているので省略します。

とにかく、白土三平&赤目プロによる「漫画を画こう」という呼び掛けが初めて掲載されたのは六五年六月号。（その前にデビューしていた新人に藤沢光男、おがわあきら両氏がいる）呼び掛けに応じて集まった作品は一二五篇、そして最初の「入選作品」は星川てっぷ、渡二十四、つりたくにこの各氏の作品でした。

その後も三橋誠（乙揶）、勝又進、池上遼一、佐々木マキ、林静一、日野日出志、矢口高雄、安部慎一、鈴木翁二、古川益三、川崎ゆきお、やまだ紫、花輪和一、蛭子能収、菅野修、鴨沢祐仁、たむらしげる、平口広美、近藤ようこ、杉浦日向子、みうらじゅん、根本敬、泉昌之、ユズキカズ、松本充代、森下裕美、東元、森元暢之、井口真吾、山野一、土橋とし子……と、錚々たる作家の方々が「入選」、デビューされています。（もちろん、他誌でデビューされてから執筆された作家は「入選」扱いにならない場合が多い）

今、30年前の新人募集の広告を見ても、おもしろい事と内容第一、これは全く変わっていませんが、我々編集部も初心に還り、気を引き締めて皆さんの作品を拝見したいと思います。

ガロ系 まんが道

みうら じゅん

これは
ガロの持つ
ふしぎな
魅力にとりつかれ
ガロに自分の
人生の夢
を賭けて、
ガロ系
まんが道という
終りのない道へ
踏みこんだ　ある
青年のドラマである！

いよいよ
渡辺さんに
会える！

神田神保町1の62――

青林堂

遂に青年は
憧れの出版社
青林堂の前
に立った！

ガロ系

まんが道

鉄人がうまく描けなかった小学生時代――その上………
勉強もスポーツも、もう一つだった
僕は、もてなかった
池山君 今度、下敷きにアトムの絵描いてくれる~~~お願い!
ダメか…

もててえなぁ…
そうや!
オリジナル!!
自分で作ったキャラクターなら誰にも負けないぞ!! これなら文句無しだ!
そして次の日 僕は昼休みにこっそり あの娘の下敷きに ケロ太の絵を描いた!

エッヘン
誰!私の下敷きに変な絵描いたの!!
新しい下敷きを買って返すハメになってしまった
すいません…これ…
150円ね

その、かつて見た扉は長い時を流し今、開けられたのだ
青林堂
あの~
持ち込みなんですが…
ドキドキ

その時ー正統まんが道は遠のき、かすかに遠くで別の光を見た
扉が見える!

ガロ系 まんが道

ワ〜イ
ぼく ひっぱりダコだぁ〜い

う〜ん

う〜ん

でも
ワ〜イ

淋しい時だって
ある
プルル〜ン
おしまい

君、また来れば
トン
トン
ひっぱりダコ君
まんが道は今始まったばかりだ

马马虎虎（スガモバウンド）　逆柱いみり

お地蔵サマー
ぶらりゆっくり地蔵通り
四日サービス会

仕事はきてるかな

ピッ
再生
留

もしもし青林堂の志村です
ム
なんだ青林堂か

がっかりだな
がっかり

このくそ暑いのにタダ働きか
貯金もなくなってきたしこんな漫画続けてたらコジキになってしまうな

主食はトーフとキューイ
でもけっこう楽天的
あと牛乳
絹ごし

马马虎虎

投稿漫画持ち込みの良い方法
(でもこれが全てではない)
蛭子能収

とにかく「これだ!!」と思えるような面白いマンガを描くこと
ハッハッハッ 描いた本人もつい笑ってしまう

これだけ面白いマンガが採用されない筈がない
と、思うこと

持ち込みは直接自分で青林堂に行くこと
ドキドキするなー
青林堂

マンガに自信があっても謙虚でいること
青林堂
あのー

何人かの編集者が視線を浴びせるがひたすら頭を下げること
すみません
ペコッ
なんてあやまるのもいい方法だ

一番近くにいる編集の人にマンガの持ち込みに来たことをはっきり言うこと
あのマンガの持ち込みに来たんですけど
あっはい
見せて下さい

編集の人がマンガを見てる時は黙っている方が良い
・・・

絵がちょっとまずいですね
あはい、そ、そうですか
編集者の批評を素直に受け入れて一ヶ月後にはまた違う作品を持ち込むことである

漫画家の平均的な一日

花くまゆうさく

「夏っていいなあ」

とにかく走る

AM7：00朝はまず走る

これが仕事場

AM9：00仕事開始

仕事場中

「あちー」

AM10：30ちょっと休憩、散歩

しんみりする

中学生の時、すごく好きだった子の家

PM12：00昼めし

AM11：30ブランコに乗る

PM12：45ヤギと遊ぶ

PM12：30ハトと遊ぶ

PM1：30荒川遊園地へ

PM1：00ヤンママと交流

PM1：43気持ち悪くなる

PM1：40コーヒーカップに乗る

受け身

走る

PM2：00練習開始

PM3：30マンガの話を考える

考える

「夏大好き」

考え中

しんみりする

PM5：00石投げ開始

PM6：00家に帰る

こうして漫画家の一日は終わる。

ガロまんが道

古屋兎丸 INTERVIEW

※1994年9月号で本誌入選後、第3回長井勝一賞佳作入選を果たした古屋兎丸氏。高校で美術講師をしながらガロに毎月作品を発表するという異色の漫画家・古屋氏には、その作品の完成度はもちろん、卓越した画力に読者の興味も集中している。ガロまんが道、ここはぜひとも古屋氏本人に技法から漫画家としての姿勢まで、話を聞いてみたい。

編集部（以下○）　古屋さんといえばガロの「技巧派」でもあるわけですが、以前仕事場に伺った時にパソコンで画像処理もしてみたい、と言われてましたね。

古　屋（以下H）　ええ、来年あたり使ってみたいとは思っています。

○　「くまちゃん」のモザイク画面などは読者の方も当然フォトショップか何かで処理してるんだと思った人も多かった（笑）。

H　今のところは手作業で試行錯誤しながら描いていくのが楽しいので、どうしてもこれ以上は手では描けない、というところまで行ったら機械に頼ってみようかな、というのはあるんですけどね。

○　「手作業で描いていく事が楽しい」というのが重要ですね。

H　ええ、それはそうです。もともと僕は細かい作業が好きで、気質というのもあるんですよね。それとこんな細かい事を手作業でやってるのか、馬鹿だなぁと言われたい、というのもあって（笑）。

○　そういうおかしさってありますよね。

H　過剰な描き込みのおかしさ、みたいなものが。

○　さてそんな古屋さんの技法部分に迫ってみたいと思います。『漫画の描き方』というものがあるのかどうか、また教わるものなのかどうかなどの議論は別問題としてですね、単純に「どうやって描いてるんだろう」さらに「どうしたら描けるんだろう」というところは一般の読者の人の素朴な疑問だと思うんですよ。

H　ええ。

○　一番最初は何をしましたか。

H　家にあった紙に線を引いて、まず点描を打ちました（笑）。

○　（笑）それはいいですねぇ。

H　まず鉛筆で線を引いて、丸ペンで点を打っていって…あ、そういえばスクリーントーンというのがあったな、と思ってそれを使ってみて…。

○　トーンの使い方は解ってたんですか。

H　あ、イラストの仕事をしてましたから、削ったり出来るんだという事は知ってましたね。それで削れるんだから削っちゃえ、というのでとりあえず人の顔を描く時に、輪郭線をペンで引かずに直接トーンを貼って、陰影を削って掘り出していくという方法を最初からわりと考えてやっていましたね。

○　普通はトーンはフラットな面の中間色を出す時に使うのが一般的ですが、最初から躊躇なくトーンを削って陰影を掘り出していくというのは何かあったんですか。

H　それは美大の受験の時などに、黒い紙に白でデッサンするということをよくやってたんです。それと、テンペラ画というのがあって、暗い所の色を塗っておいて、その上に明るい色をハッチングして掘り起こしていくという方法で絵を描いていたんですね。だから削って掘り起こしていくという方法は発見したとかではなく、わりとすんなり自然にやっていたというか。

○　普通の漫画の描き方、というのもヘンですけど、まぁ大体鉛筆で下書きして、主線をペンで入れて、細かい線とか効果線を入れてベタ入れして…というような流れってありますよね。イラストをやられてた時はどうでした。

H　イラストはですね…、教科書の図版だったんですよ（笑）。だからベタはあるけど効果線はないし、必要以上にデフォルメする事もないし。まぁごく自然に描いてましたけどね。

○　どういうものを描いてたんですか。

H　フラスコ、ビーカー、三角形、ひまわり…あと胎児の絵とか内臓、食物連鎖の図解とかカブト虫、蝶々…ミジンコとかですね。だからミジンコなんて何回描いたか解らないですよ。今で

もソラでミジンコは描けます（笑）。

○　ああいうのは写実的で、かつ解りやすく描かないといけないわけですよね。ミジンコを下からグワーッと見上げた絵なんかは必要ないわけで（笑）。

H　そうですね（笑）。で、そういう仕事も大学出てから初めてロットリングを使い始めて、点描を打ったり自然な曲線やだ円を描く訓練をしたんです。その過程で自分はこういう細かい作業が向いてるんじゃないかな、というのに気付いたんですよ。だからその仕事してる間も楽しくてしょうがなくて。それで思い立って、漫画描けるかもしれないな、と。

○　やはり自分でお話を一から創っていく方が…

H　あ、でも図版は何も考えないですみますからね、ただ単に与えられたものをいかに忠実に描くか、という…「機械になる喜び」というのもありますね（笑）。今は別の意味で創る喜びというものもありますけど。

○　大雑把に考えると「お仕事」で細かい絵を性格に描く事を要求されていると、創作の方では逆に真っ白いものをやりたくなりそうですけど、古屋さんは違う。

H　細かいのが好きなんですよね。今月（9月号）ので言うと『見えないゴミの日』のやつ、これをやるためにその前後は必要以上に力入れて細かくしたんですよ。

○　それでグッと引き立つというか、ドキッとしますよねこれ（笑）。ところで道具はやはり丸ペンが主ですか。

H　点描はそうですね。「まんが道・その1」という感じで言うと（笑）、丸ペンを線描用と点描用を用意して、必ず使う前は火であぶって油を飛ばして、インクはパイロットの製図用インクを使っています。点描は息を静かに整えて…点描打つ前に煙草を思いきり吸ったりすると手が震えるので（笑）吸わないようにして打って行くんですけど、あまり速く打つと乱れちゃいますから、速度としては1秒に二つ打つ感じで……というのが理想ですけど、なかなかそうはいきません（笑）。

○　よく点描は点が丸になってないといかんとか言いますけど…。

H　あ、僕のは丸じゃないんです。

○　一定であればいいわけですよね。

H　本当は丸い方が綺麗なんですが、インクやペンの調子で変わってしまいます。それよりも点の間隔が一定になるよう注意しています。ただあせっていたり、気分が乗らなかったりすると点は乱れますね。けっこういいかげんです。参考にするのなら僕なんかより宮西計三先生の本を見てもらった方がいいと思います。僕なんか全然未熟ですから。

○　いやそんな事ないですよ。物凄いですよ。他の線はどうですか。

H　こういう線の場合は丸ペンなんですけど、この点はロットリングです。今回はちょっと少ないんですけど。

○　こういったアールの部分、きれいなカーブの線は…。

H　これはテンプレートです。

○　なるほど。

H　あと今回はここしか無いんですが、トーンを貼って掘り起こしていくやつですね。まず最初下書きするんですけど、光が当たっている部分の輪郭線はペンを入れないようにするんです。その部分は表から描いた下書きを一度裏から透かして（トレス）なぞって、で表の下書きを消します。そして、裏になぞった下書きを元にトーンを貼って、線に沿って切って、削って行くんです。

◆丸ペンによる点描

◆ロットリングによる点描

○　ハイライト（光の一番強く当たった部分）はもう真っ白まで削ってますね。

H　そうですね、あと削るときは、トーンの目に逆らって斜めに削って行くんですね。

○　トーンに目がある事も気付かない人が多いですよ。

H　そうですか。目に逆らって削らないと効果がないですからね。あとタカシ君の場合は点描を打っておいて、その上からアミの64番のトーンを貼って、削っていくという方法を取ったりします。

○　やる人は色々試してみるといいですね。砂消しゴムで削る人もいますし。

H　あ、そうですね。色々自分でやってみるといいと思います。

○　ベタはいつ入れますか。

H　ベタはペン入れの段階で、その都度入れながら進めていきます。

○　流れ作業で描く人、プロダクションなんかはコマ割・ネーム→鉛筆下書き→ペン入れ→ベタ入れ→トーン・仕上げ…みたいにシステマチックにやりますね。

H　僕の場合は一コマずつ描いて行きますし、一コマ目を描いてる時は二コマ目は真っ白ですから、一コマ目をもうスクリーントーンまで貼って仕上げてから二コマ目の下書きに入るという感じです。僕の場合はさっきの流れ作業みたいな事になると、もう「お仕事」みたいになっちゃって、絵を描く事を楽しむという事でいうと一コマずつ仕上げていく方が楽しいんですね。

◆古屋兎丸先生描き下し!! の「ダメおやじの描き方」これで君もダメおやじをリアルに描けるぞ!!

ダメおやじの描き方

①鉛筆で下描き
②ペン入れ、ロットリングの0.1と丸ペン（ニッコー）が主
③トーンをはる。この場合ICスクリーントーンのS-194だけどなんでもいいと思う
④カッターでトーンをけずる。トーンの目の方向は〇なので✕方向にけずるとよろし
⑤完成!! ダメおやじをマスターするとタコ坊も描けるぞ!!

○ 楽しくないとやはりいけませんねえ。
H そう思います。
○ 楽しいという事でいうと、アマチュアの人で多いのは自分の描ける絵しか描きませんね、描いていて楽しいのは解るんですが。アングルも一定で顔も一方向からのが圧倒的で。デッサン力とか、写実至上とか言うと、結局写真や映画でやればいいという事になるので違うんですが、もちろん漫画にしか出来ない表現でいうと、現実に有り得ないものをリアルに描く事も一つありますね。このサ○エさん一家の白骨死体も（笑）。
H これなんかは実写や文章でやってもあまり面白くないかもしれませんね。でも最近はデフォルメであるとか線、効果線、擬音といった漫画的な表現方法の重要さを感じています。僕も一本の線で表情を見せる、林静一さんの絵のような絵が描けたらいいな、とは思うんですが、どうしてなんですかね、思ってても描けないんですよ（笑）。
○ でも今はこういう細かい絵の方が描いてて楽しいわけでしょう。
H えぇ。でも誰にも見せないですけど、そういう絵を描いて一人で「フフフ」と眺めたりはしてますよ。ただ何かに発表できる絵ではないな、と。
○ でも発表して下さいよ。作品の中にちょっと入れてみたりして。
H 僕が勉強しなくちゃいけないな、と思うのはそういったペンを使った流麗な線、というものですね。
○ あと、古屋さんの作品で忘れてならないのは「軋む夜」シリーズ。あの原稿も凄い。
H あのシリーズは、白黒反転していると思われてる方も多いと思いますが、スクラッチボードというものに直接カッターで描いているんです。削った線は白く残り、修正も黒インクで簡単にできます。
○ ところで、模写はしましたか？
H あ、小学生の頃模写が趣味でした。手塚治虫さんの1頁まるごと模写したり、石森章太郎さんとか松本零士さんとかのを、10頁ぐらいの漫画を1本丸ごと模写したりしましたね。
○ それは今に生きてるんじゃないですか、やはり。私事で恐縮ですが、僕が長井さんに漫画を教わってた頃、やはり模写をやらされましたんで、大事なんじゃないかなぁ。一番難しかったのって滝田ゆうさんの絵。
H 僕も同じタイプだと思います。あいう線は難しいですよね。線に勢いのある人の絵って難しいんですよ。スピードってありますよね、模写ってどうしてもゆっくりになっちゃうから松本零士さんの線はそういう意味で言うと僕にとっては割と模写し易いタイプで。
○ 楽しく描けるに越した事はないんですが、そこに至るまでに多少苦痛でも模写してみるとか、デッサンの勉強してみるとか、そういう姿勢そのものはあってもいいですよね。
H そうですね、とりあえず好きな作家の模写から入るとか…あと、これからコンピュータで描く漫画が主流になる可能性がありますよね、そうなった場合に模写しようと思ってもなかなか出来なくなるでしょう。
○ 元絵がパッと見で解らないから、同じソフトでエフェクトとかフィルタを全く同じものを使ったとしても難しい…。
H もう使い始めてる人、山本直樹さんの主線は模写出来ても背景とか、あと寺沢武一さんなんかはもう不可能ですよね。だから出来るなら今のうちにたくさん模写しておくといいかもしれない。
○ でも古屋さんの模写は大変そうで

◆カ○オの白骨死体と思われる…

◆多彩な作風、「軋む夜」シリーズ

すねぇ。

H　あ、やる人がいたら見てみたいですね。

○　添削して返したりして。

H　もちろん。

○　募集してみましょうか。

という訳で古屋兎丸先生の漫画の模写をした人は、ガロ編集部古屋模写係までお送り下さい。必ず古屋先生にお渡しして批評を頂きます。ただしトレス不可です。

H　あと僕が一番役に立ってるのは、中学・高校時代の、授業中の落書き帳ですね（笑）。高校の先生がこんな事言っちゃいけないですが、つまらない授業中って空想が膨らみますよね。

○　ああ、私も教科書真っ黒でした（笑）。

H　でしょう（笑）。こんな事言っていいのか解りませんけど、漫画って人から教わって描くものかどうかという話ありますよね。絵を描くのが好きな子供はノート真っ黒だし、音楽好きな子は気づくと何か叩いたりしてますよね、落書きにセリフがついてやがて線で区切って、気付くと漫画になっていたという自然な流れではなくて、誰かから一から教わって描き出すというのは、ちょっと違うような気がするんですよね。新人がエラソーな事言ってすみません。

○　いや、この世界はそんなの関係ないですよ。むしろ、これから描いてみようという人には参考になると思うし。もっと言って下さい（笑）。

H　そうですか（笑）。…あとその人だけしか理解し得ない、他人と共有できない事象だとか、観念みたいなものを私小説として表現することは、とても難しいですよね。僕も昔描いたそういうのを見ると未熟で「うわぁ～」って恥ずかしくなりますから（笑）。

○　一般の人に見せる「作品」に昇華する、という事は物凄く大変だと思いますね。特に夢の話などは、作品にする力があればいいけど、たいていはただのワケの解らない話になってしまう。

H　そうですね。私小説で「小説」がつくといいんですが、「私」だけとかあるいは本人の性癖とか生理みたいなものだけだと辛いですよね。それと、僕の場合ですけど、言葉遣いも難しい言い回しなんかはなるべく避けるようにしてるんですね。わざと難しい言い回しを笑いのために使う事はありますけど。

○　それを効果的に使うとか、ストーリー上必要な場合以外は。

H　ええ。だから理由もなく難解な言い回しや表現を使わないようにしてるんです。

○　ショートショート作家の星新一さんが作品を創る際のポリシーとして、一つは簡単な言葉や表現で書ける事はできるだけやさしく書く。もう一つは時事ネタは使わない、と言われていますね。

H　僕もパロディはやりますけど、それは普遍的に了解されているものとか、今後長く残るであろうものに限ってるつもりなんです。

○　これは私小説や時事ものの批判ではもちろんない訳ですね。

H　もちろんそうです。私小説に関して言うと「私」のタレ流しになると作品として成立しないんじゃないかな、と言ってるだけで「私」をモチーフにした作品で優れたものは多いと思います。つげさんや菅野さんみたいに。自分はそのようなものを描こうとして描けなくていつの間にか笑えないギャグマンガになってしまいましたが（笑）。でも最近私的言語や自分の抽象的な感情を作品化するのにギャグマンガはとても良い方法じゃないかと思うようになりました。「笑い」に包んでこっそりと見せる。でもユーモアですから、自分は表舞台に立つことなく、恥ずかしい思いをしなくてすむんです（笑）。

○　なるほど。でも笑いに昇華させるのもけっこう大変かも知れませんね。お涙頂戴なんかは定形があって、けっこう簡単かも知れないけど。

H　自分の中の混沌が笑いにしろお涙ものにしろ、何かに昇華され次第に定形化してくると表現はつまらなくなる気がします。いつまでも矛盾を抱えたまま答えのない作品が描けたらいいなと思っています。それにしても未熟なんですね、どうしてこうも笑えない作品が多いのでしょう。思い付いた時はこれだ、と思うのですが（笑）。

○　いやいや、そんな事はないですよ。今後も大いに笑わせて下さい。

H　何か偉そうでどうもすみませんでした。

★収録…1995年8月2日（聞き手・白取千夏雄）

★文責…ガロ編集部

GARO
ガロまんが道
SPECIAL EDITION

漫画家アンケート

★凡例＝氏名●年齢●漫画家歴●ガロ歴●入選作品／ガロ入選年月号

①ガロに投稿した動機は。

②入選までにどれくらいの間、何作持込み・または投稿なさいましたか。

③現在使用しているペンの種類を教えて下さい。

④ガロに入選する前と後では、ガロや漫画に対する考え方は変わりましたか。

⑤ガロに描いたことによるメリットと、デメリット。

⑥家族や親戚が漫画を描いていることを知ってますか。知っている場合、何と言われていますか。

⑦今まで、仕事をしていてバカヤローと思った時はどんな時ですか。また、バカヤローと言われた事があれば、それはどんな時でしたか。

⑧漫画家を続けるためには何が一番必要だと思いますか。

⑨ガロ、そして漫画界に対する不満と要望。

⑩漫画家（この場合はガロ入選）を目指す人々に「これだけは言っておきたい」。

★回答頂いた作家の皆さん、お忙しくかつまたクソ暑い中、本当にありがとうございましたっ!! ありがたいお言葉の数々、心して読まれたし…　【編集部】

※掲載は回答順

津野裕子●29歳●漫画家歴9年●ガロ歴9年●入選作品「冷蔵庫」86年5月号6ページ

①どこのマンガ雑誌よりも魅力的な作品を描く漫画家さんをいっぱいかかえているガロだから。

②2ヵ月・2作（ガロには）

③PIGMA（0.3）

④「漫画」に対しては変わらないです。漫画はいつだって高い所にある清らかなもの。「ガロ」は入選してからさらに雪ダルマ式におそれおおくなるばかり。

⑤いろんな人と知り合えた。（←メリット）いろんな人を知った。（←デメリット転じてメリット。にできるタイプの人間じゃないんだ私は。）

⑥知ってる。「さっさとやめて結婚しろ」とよく言われてしまう。友達に出世頭と言われてちょっぴりうれしかった。（…どこがや）

⑦地元新聞の仕事でイラストを描いた。しばらくしてなんのことわりもなく古新聞を入れる袋（毎月1枚ついてくるやつ）にどかーんとそのイラストが印刷してあってゴミの日の度にあちらこちらの町かどにうず高くその袋が積んであって下を向いて歩く日々が半年つづいた。

⑧机の上をキレイにしておく事。「描こうかなー」って気になるから。白い紙。好きなシャーペンには芯がいっぱい。大きくて白くて四角いケシゴムさえあればしあわせ。

⑨ガロも漫画界も時代とともに変わるのはあたり前なのでなんの不満もなし。

⑩「継続は力なり」（って昔四コマ画廊にあった。えらく勇気づけられたので。）

秋山亜由子●31歳●漫画家歴0年●ガロ歴3年●入選作品「ひとり娘」92年12月号10ページ

①漫画を描きたい、と思った時何だかよくわからんのですがガロに持って行こうと自然に考えた。

②期間＝4ヵ月・4作・持込み

③ゼブラ丸ペン

④変わりません。以前と同じく遠い世界です。

⑤まだ、そういうことを実感できる状態ではないのでちょっとわかりません。

⑥家族は知っています。特に何も言われません。

⑦しょっちゅう、自分に対して思っています。仕事の上で言われたことはありません。（他ならあります）

⑧漫画でご飯が食べられて、それを持続させている方々は、根本的に頭の出来が違うのだと私は考えています。

⑨

⑩

SPECIAL EDITION

古屋兎丸●27歳●漫画家歴1年●ガロ歴1年●「Palepoli」94年9月号8ページ

①ガロのファンですから。

②半年間・6本

③ニッコー丸ペン・ロットリング0.1～1.4

④漫画は印刷物なのだとあたり前のことに気付きました。

⑤メリット：読者さんからお手紙ついた♪デメリット：猫背になった。

⑥親は知っていますが読まないようによく言ってあります。

⑦今のところありません。

⑧まだわかりません。1年半しか描いてませんので。

⑨へんな漫画が載ってるへんな雑誌がふえるといいと思います。

⑩お互いがんばりましょう。

東陽片岡●37歳●漫画家歴1 3年●ガロ歴1 3年●「やらかい漫画」平成六年六月号十ページ

①ワタシのバヤイ、ガロを目指すとゆうよりも、ガロに持ってかなくてはいけないんだとゆう強迫観念が限界までふくらんでしまい、投稿させていただきました。それと、井上君に勧められたから。

②最初の投稿で描き貯めた数十ページを持って行きました。

③サインペン・筆ペン

④ガロ編集部の人はコワイ人たちかと思ってましたが、やさしい人たちだった。Gペンやカラス口を使えない劣等感が多少あったのですが、なくなりました。

⑤メリット：仕事が来るようになった。付き合いの幅が拡がった。ランパブのお姉ちゃんにも知られるようになった。デメリット：交友関係で、ガロを読んでない人が分かってしまう事。井上君に期待される事。

⑥皆さん暖かく見守ってくれていると思っています。

⑦〆切り日が来たとゆうのに、パチンコをしている自分に対してバカヤローと思いました。ワタシは編集の方の無言のバカヤローを聞いて、脳ミソのアドレナリンを出す体質になってしまいました。反省しなくてはいけません。

⑧長時間ジッとしていられる事。井上君のアドバイス。

⑨温泉ツアーを企画して欲しいです。歳をとると出版社に行きづらくなると思うので、漫画家の職安を作って欲しいです。

⑩自分の作品をみんなに見せて支持してくれる人がいたら、作風を押し通した方が良いと思います。

三本義治●26歳●漫画家歴4年●ガロ歴10年●入選作品「隣りの男」91年8月号6ページ

①お笑い集団『大恐慌劇団』のお手伝い（チラシ作り、チョイ役登場など）をしていた際、同集団のプロデューサーである唐沢俊一さんのご紹介により。（なので最初の原稿は自分で持っていっていません）

②2年間の間にメジャー誌に2、3作、ガロ2作（うち阿佐ヶ谷のガロ『漫画教室』で長井さんに見て頂いたのが1作）

③丸ペン、Gペンが主。

④変わりつつある所だと思います。（ホントか?）

⑤色々なイラストや漫画等のお仕事を頂けたことがメリットです。僕はそれを自分の好きなようにしかやっていないので、デメリットなどありません。

⑥漫画を描いている事は知っていますが、以前パチンコ雑誌に載っているのを見た程度で、それ以上はこちらからも教えていません。（親の方も知りたがっている様ですが、それ以上の深いせんさくもしないようにしている様です）

⑦仕事という意識が今まであまりなかったので、バカヤローと思ったことはありません。今、アルバイト先の上司（漫画とは全然関係ない）には毎日バカヤローと言われています。

⑧そんなえらそうなことはわかりません。

⑨漫画界に対する不満とかは別にありません。ファンタグレープの炭酸はすこしうすいとか、ガリガリ君（60円無果汁）ソーダ味のパッケージで〝いろいろなことにチャレンジするガリガリ君のパッケージが登場するぞ キミもガリガリ君にチャレンジしてほしいことがあったらおしえてくれ〟とかいっておきながら、全然登場してこない（ちなみにいちご味のパッケージではかき氷くってるだけ）とかいうことの方が不満です。でもコーラ味のパッケージはちょっと見かけただけでうちの近くのコンビニから姿を消してしまったので、何か挑戦しているかもしれない。期待しよう。

⑩これだけはって言われると困るけど、何かじゃあそんなに言いたいことがあるのか?って言われると全然ないです。

大越孝太郎●28歳●漫画家歴9年●ガロ歴9年●「アカグミノカチ」86年12月号6ページ

①高校の美術の先生に勧められて。

②2ヵ月、2回（作）目で。

③丸、カブラ、G、ロットリング、その他秘密。

④変わりました。

⑤メリットはいろんな人（作家や読者）との出会いです。デメリットは感じません。

⑥皆知っています。がんばれよと言ってくれます。

⑦原稿料の支払いがルーズなところにはバカヤローと言いたいなあ。で、催促をしたときに〝うるせえバカヤロー〟と思われてるんでしょうね。

⑧作風によりますが僕の場合は、エロチシズム。

⑨
⑩

鳩山郁子●27歳●漫画家歴?年●ガロ歴　年●入選作品「もようのある卵」87年10月号5ページ

①本屋で立ち読みをした時、投稿作品募集の欄を見て。
②3作くらい。
③ゼブラ丸ペン
④
⑤例え原稿料が出なくても（勿論出れば嬉しいけれど）、少数であれ人に読まれるということ、名刺代わりになる立派な単行本を出して貰えるということ、自由にやらせて貰っている以上これらは十分にメリットたり得ると思うのですが。
⑥yes.「つげ義春の描いていた雑誌だからガンバレ」と言われた。
⑦一年間のイラスト料11万3千円を踏み倒された時。
⑧描き続けること。
⑨
⑩

Jerry●28歳●漫画家歴4?年●ガロ歴2~3?年●入選作品「ボクとアノ娘」92年10月号12ページ

①作品のプレゼンの場が欲しかった。
②最初の持ちこみだと思います。
③普通のサインペン（水性）。
④特に変わらず。
⑤ガロ経由で入ってくる仕事とか、わりとあるのでそれがメリットでしょう。デメリットは、やっぱり「ガロの人」という、よくも悪くもジャンルでひとくくりにされることでしょうか。
⑥知ってる。去年ぐらいまで父親は「今からでもおそくない！寄らば大樹のかげに！」と、会社勤めをすすめていました。母親は「親が思ったように子は育たんねワハハハハ」と言ってます。妹「……………」弟「ボーナス早く入らんかな～ルンルン。あ、ごめんいたの？」
⑦特になし。
⑧わかりません。※現在、漫画の仕事はもうやってない。
⑨特になし。
⑩「寄らば大樹のかげに」

小野明弘・野口専二●26歳●漫画家歴2年●ガロ歴2年●「ビューティフル・サンデー」93年11月号12ページ

①とにかくガロにあこがれていた。自分の作風は、ガロにしかウケないと思っていたので。
②入選するまで3年間かかった。3作目で入選した。
③Gペン・丸ペン
④（メリット）自分の作品が日本中の読者に読んでもらえる。それはよろこびである。（デメリット）ない。
⑥両親は、息子がガロに描いていることを、自慢にしている。客がくると、息子の漫画を見せびらかして、よろこんでいる。
⑦友人に「早く有名になって少年ジャン○にでも載せれば」と見下したように言われた時。バカヤロー!!（その友人はガロを全く理解していない！）
⑧原作＋作画の絶妙のコンビネーション！
⑨「GARO」より「ガロ」のほうがいいような、なんとなく。そんな感じが……。
⑩編集部のアドバイスをすなおにきこう！

逆柱いみり●5歳●漫画家歴5年●ガロ歴5年●入選作品「马马虎虎」（本当は89年10月号の8ページ作品）

①絵がガロだし、サービスも出来ないし。
②一発入選。
③一本100円のサインペン0・1㎜。
④漫画をあまり読まなくなった。
⑤デメリット：普通の娯楽漫画みたいに普通の人々にも読んでもらいたいと思う時もある。メリット：普通の娯楽漫画のペースで描いていけないので、ページ数にもシメ切りにもこだわらないガロはやりやすい。
⑥漫画の事にはふれないようにしてくれている。
⑦ガロ以外から仕事がこない!!
⑧別に続けなくてもいいと思います。
⑨漫画界に対しては別に自分とは何の関係もない世界だと思うので何もなし。ガロはカットの仕事などを紹介してくれるとありがたいと思う。社内旅行にも連れていってくれるとうれしい。
⑩思いきってバックナンバーを処分しましょう。

花くまゆうさく●28歳●漫画家歴約10年（実数4年くらい）●ガロ歴　年●「野良人」93年6月号7ページ

①ガロに載りたい。
②思ってから、約7年くらい。5作ぐらい（たぶん）。
③カブラペン。
④たぶん変わってないと思います。
⑤メリットはいっぱいあります。デメリットは、いまんとこないと思います。
⑥知っている。親の口から「ガロ」とでた時、不思議な感じがした。
⑦少しあるけど、言わない。
⑧才能。
⑨秋田書店は、ただちに「ハードコア」の2巻をだしてほしい。
⑩才能があれば大丈夫。

杉作J太郎●33歳●漫画家歴13年●10年●入選作品「真実の日」85年6月号2ページ

①ガロが好きでよく読んでいたから。
②入選までに1回。その落選後、

エロ漫画界で修業開始。
③Gペンです。メーカー不問。
④まったく変わらない。
⑤精神年齢が高校生ぐらいで止まっていること。今現在、俺は18才ぐらいのつもりでいる。本気です。
⑥知っている。別になんとも言わない。
⑦なし。言われてもすぐ忘れるように努力している。努力のかいあって記憶になし。
⑧脱線。
⑨少年サンデーの『ジーザス』が終わったのが最近では最大の不満。魅力的な登場人物があぁいうかたちで未消化のまま連載が打ち切られてしまうのはファンがかわいそうすぎる。俺だけど。読者アンケートで作品の命の長短を決める方法というのはやはりどんなもんか。とくにストーリィ漫画の場合。
⑩せめて自分ぐらいは自分を信じたほうがいい。自分ぐらいは自分に賭けたほうがいい。

みうらじゅん●37

歳●漫画家歴15年●ガロ歴15年●「ウシの日」80年10月号20ページ
①「ガロ」しか載らないと、友達に言われたから。
②一年近く。毎月キッチリ自分で〆切り決めて。
③かぶらペン（極フツーの）
④いくら漫画を描くのが好きでもお金を頂かない事には食っていけないという事。
⑤渡辺和博さん、根本敬さん、ひさうちみちおさん、手塚能理子さんなど、ガロの知り合いがいっぱい出来た事が一番うれしい。
⑥年寄りという奴は未だに漫画より、小説やエッセイ、テレビに出てる方がエライと思っている。
⑦池袋のSMクラブでM役をやった時、「漫画家なんてサイテーの仕事だな！」と女王様に言われ、妙に納得した。
⑧描きたいテーマ。
⑨道で一億円拾ったら、ガロに寄付します。
⑩ガロにしか載らない作品じゃないと意味がない。

西岡兄妹●

歳●漫画家歴5～6年●ガロ歴　年●入選作品「針金」91年10月号10ページ
①ガロ以外では描かせてもらえそうになかったから。実はモーニングでデビューしたのですが、すぐに載せてもらえなくなってしまいました。しょうがないことです。
②一作目で入選しました。
③名前の知らないペン先3種とゼブラの丸ペン・スクールペン（など）。

(黒)　(黒)　(金)

④特に変わりません。
⑤作品を発表する場ができた、それに尽きます。
⑥知っていますが、別に何も言われません。
⑦あまり希望というものが無いので、そんなふうに思ったことは殆どありません。
　以前、モーニングで「幼女連続殺人」の漫画を描いたとき、たくさんのご批判のお手紙を全国のバカどもから頂きました。ありがとうございました。
⑧独創性。
⑨夢のような話ですが、描きたくないものや描かなくてもいいものや描いちゃいけないものを描かなくても最低限度の生活だけは保障される世界になってほしいものです。良い作品をつくることだけ考えて生活するというのもそれはそれで恐ろしいことだとは思いますが、作家がそこから逃げ出したくなるぐらい濃縮された世界であってもらいたいものです。
　ガロについては存続のみを求めます。
⑩どうしても自分しか描けないもの、自分が描かなくてはいけないと思えるもの以外は描かないでください。猿真似、亜流には反吐が出ます。消えてください、邪魔です。

魚喃キリコ●22歳●

漫画家歴2年●ガロ歴2年●「HOLE!!」93年9月号16ページ
①のびのびできそうだったから。
②6年間で8本持ち込みました。
③クロームペン（?）・クロペン
④ここ2年で考え方は（漫画に対する）かなり変わったがガロの入選がキッカケではないと思う。
⑤仕事の依頼がありました。
⑥知っている。裸はやめろ、と言われている。
⑦ある方が原稿を返却すると半年以上前から言っといて未だに返してくれない。無くしたなら無くしたと正直にゆってくれよ、と思っています。
⑧発想
⑨特にないです。
⑩特にないです。

安彦麻理絵●

歳●漫画家歴　年●ガロ歴　年●「おんなのこである条件」89年10月号4ページ
①自分が好きな漫画家さんが、雑誌等で「デビューはガロ」といっていたので。
②最初短いやつ（2～3Pくらいのもの）を4本くらいかいてまとめて送ったらダメで、それからすぐ4P1本かいて送ったらのっけてもらった。
③ニッコーのGペン・ロットリングのラピッドライナー0 2㎜・ゼブラの丸ペンなど。
④変わったような気もする。
⑤「デビューはガロ」というとチヤホヤしてくれる人種の人がいる。チヤホヤされて悪い気はしない。

⑥知っている。母親からは「あんまりはずかしいものかくのはやめなさいね」とクギをさされてるが、最近はそんなにうるさくもない。

⑦基本的に私は、ガロ以外の他誌の仕事でも、理解とヤル気のある編集者に恵まれたので、バカヤローとくにいいたくなるような事はあまりない。あったとしても、もう、忘れた。

⑧運と才能。

⑨不満や要望などにはキョーミがありません。私はできる限りマンガをかきつづけていきたいと思っているだけです。

⑩とくにありません。

根本敬● 歳●漫画家歴 年●ガロ歴 年●「青春むせび泣き」81年9月号10ページ

①「ガロ」に参加したかったから。

②幸にも一作目で。

③水性サインペン（但、耐水性）

④他のマンガに対する興味が薄れた。マンガ本を買わなくなった。（但、一部の人達はべつ）

⑤マイナーのアカがこびりついてとれない。（とはいえ、所詮身から出たサビならぬアカだが）

⑥タブーになっている。

⑦百万単位の部数を誇る大手マンガ編集者の妙な余裕に感じた事はあるが、現在はどうでもいい事。

⑧「ガロ」のマンガ家に限定すれば、プロになりたいんならとにかく、デビューしてから描けるうちにできるだけ描いておく。ある程度たってどうにかそれなりに喰える様になってからだと、ノーギャラでちゃんと描くのはかなりしんどい。（勿論、今、この場でガロノーギャラの件を批判してるわけでない）金を貰うのが原則である以上他社の仕事（どんなにツマンないもんでも）を優先とゆう事になる。するとどうしても僅かな"自分の時間"を削る事になり、万全の状態でガロに描くのはむづかしくなる。また、10年もたてば、ノーギャラで描く事は「何故自分はマンガを描くのか」といった根本的な事を描いてる間中、問いつめられてる様で（勿論、自分に）これもまたしんどいんだな。それから、ガロのマンガ家の場合、例え名がそこそこ売れ、喰える様になっても純粋にマンガだけで喰うのは困難。やっぱりシノギ（イラスト、エッセイ、ルポ、TV出演、AVetc…）が生活の糧を得るための重要な手段となる。よって、とにかく、仕事は選んじゃいけない。エロ本も大切にしましょう。

⑨漫画界だけがどうこうゆうより、世の中の大勢そのものが気にくわない。とくに平均的な（ジャンプ読んで、スキー行って、コンパでバカをさらしてる大学生だとか）今風の若い者が気にくわん。なァ〜んて事、ワザワザ文字にするのは野暮な事なんですが、しかしこういう気持ちを強く持ってると、メジャー言うんですか？世間的な成功を得るのは困難。小室哲哉だって、秋元康先生だって、ホイチョイプロだって「皆はまちがってません」と言うのが大前提でしょ。「渋谷歩いてる奴ら、いつか皆殺しにしてやる」なんて心の奥で思ってる人間の描くマンガなんて、やっぱ売れるワケないですよ。一部の好き者以外には。

⑩ガロでデビューすると、ガロ出身者という事で、確実にマンガ業界内で差別されます。

皆さんありがとうございました!!
【ガロ編集部一同】

SPECIAL EDITION

編集部覆面座談会

●毎日のように郵送で作品が届き、熱心な投稿者が訪れる我が編集部。本当にありがたい事です。●しかし、ちょっとこの場を借りて、敢えて言わせていただきたいこともあったりする……。●という訳で、ガロ編集部の現役編集者6人が匿名で座談会を催した。普段は言えない喜び・悲しみ・そして怒り(笑)など、毎月のガロ持込みウラ話の数々、しばしお耳を拝借…………●●●●●

F／もしかしたらコレって「こういう人は困ります」っていう話になてしまうかもしれないね（笑）。

E／でもまぁ、今回は特別ということで許してもらってさ、ちょっと話してみましょう。

B／よく「毎月どのくらいの投稿があるんですか」ってきかれるよね。

D／平均すると、50～60作くらいだね。

E／直接持ち込みは20人てとこかなぁ。

D／あとは郵送の人だね。でもさ、郵送の人で、当て紙を入れて来ない人って多いよね。自分の原稿が曲がってもいいのかなぁ。

E／こういっちゃ何だけど、あれって送られてきた段階でだいたい分かるとこってあるね。

D／宛て名見ると〝青林堂〟って呼び捨てで書いてあったりするの（笑）。返信用封筒も入ってなくて。でもそういう人に限って「載らないんだったら返して下さい」って言うけど、困る（笑）。

F／でもさ、返信用封筒が入ってなかったら、もう処分させてもらうほかないよね。規定にもそう書いてあるし。入れてこない人が多いから、保管してると大変なことになるし。

E／長井さん、いつも「自分でかいたものが大切じゃないのか」って物凄く怒りながら捨ててたね（笑）。

D／でもさ、ホントそう思うよ。愛着がないか、それともよっぽど自信があるかでしょ、入れて来ないっていうのは。

F／持ち込みの人でもさ、原稿持ち込み以前に、ついにウチにたどり着かなかった人っていたね（笑）。確かに神保町って分かりにくい。枝番が靖国通りはさんで偶数と奇数に別れてるからね。普通そんな土地はないから。

E／で、何回も電話かけてくるんだよ。今何々ビルの前なんですけどって。

F／それで何回も何回も電話入れて来てさ「あ、近くまで来た」と思ったら、次の電話では思い切り反対方向に行っちゃってて、それでついにこられなかった人って何人かいたね。で、長井さんがすごくマジメな顔で「まず地図の見方から勉強しないとダメだな」っていってた（笑）。

E／せっかく原稿描いたのに、もったいないよね（笑）。

D／力つきちゃったんだよ。でもそれ、その人もちょっと悪いよ（笑）。

E／よくさ「直接行くのと郵送では差はあるんですか？」って聞かれるけれど、やっぱりちょっと差はあるかもね。直接会って話をするワケだから。だから地方の人はちょっと損な感じはするんだけれども。

F／でも電話して直接来るにしてもさ、「あ、青林堂？　漫画みてくれんの？」とか、ぞんざいな口きかれると、来なくてもいいよ、って思うよね、正直いって。長井さんそういう人にも怒ってた。「まず電話のかけかたから勉強した方がいいな」って（笑）。

D／そういうのってさ、最低限のことじゃない。だから怒られても仕方ないよ。

F／投稿じゃないけれど、本の問い合わせでもあるね。「あ、青林堂？　丸尾の本って何があんの？」だって（笑）。

E／だからって「いっぱいあるよ、んでよー」とか言えないもんなぁ、こっちは商売だし（笑）。

F／「丸尾の本」「根本の本」「みうらの本」これ、ぞんざいの御三家（笑）。

D／多いよねぇ。でも三人が聞いたらちょっと嬉しくないかも（笑）。それってさ、宛て名で青林堂って呼び捨てで書くのと同じだね。

E／だいたい入選してその後活躍してる人ってみんな一様に、そのへんはちゃんとしてるよね。

C／エビスさんは大丈夫だったの？

F／変な人ではあったけど、物凄く謙虚だったよ。いつも90度以上頭下げて。でもその時床に涎たらしてたけど（笑）。

D／みんな普段は普通だよね。普通だからああいう漫画描けるんだよ。対外的なことはわりとしっかりしてるよね。でも根本さんやエビスさんの漫画に出てくるような人じゃないとダメだって思い込んでいる人いるよね。

一同／いるいる（笑）。

F／それにちょっと、ホントにやめて欲しいと思うのは「山田花子の生まれ変わりで

来ました」っていう人（笑）。山田花子が聞いたら、そんなの一番嫌いなタイプだと思うよ。怒ってるよ、絶対。

D／ウチ生まれ変わりお断りだから（笑）。

F／堂々と実名で来てほしいよね。だってそれ反則技でしょ。

C／だいたい、人類の歴史の中で、生まれ変わりって言って大成した作家なんていないでしょ（笑）。

E／あとさ、わりと苦手なの外人（大爆笑）。そら漫画も国際化しなきゃいけないとは思うよ、実際。

F／でもウチの編集部ダメだね、それは。だってさ英語できるやつ誰一人いないし。外国からファックスがきても「いいたいことあるんなら日本語で書けよ」とか怒ってるもん（笑）。

E／通訳つけてくるんだけどさ、その通訳の人が漫画に全然興味がなくて、もうチンプンカンプンになることってあるんだよ。その上バンドやってるっていってカセットまで渡されて（笑）。

B／外人じゃなくても、何か持って来る人って多いね。自主制作のビデオとかCDとか。

A／こないだ立体持ってきた人もいた。置き場所に困ったけど（笑）。

D／すごく一生懸命なのは分かるんだけれど、こないだキャンバスに1枚づつ4コマ漫画描いてきた人がいてさ、リュックから出すんだよ（笑）。

E／それもし入選になっても製版にものすごく金かかるね。製版屋怒るよ、きっと。機械に巻けないって（笑）。でもさ、ウチって奇をてらった人って多いね。一時戸川純が人気だった頃もちょっといたけど。最近特に多くなった。まあ、雑誌の性質上、そうなんだろうけど。

D／なんかさ、過剰に、作家の実像と虚像と作品がゴッチャになってるところがあるね。

F／まっ、読者という立場では実像はわからないんだろうけれど、でも、普通パジャマとか着てこなでしょ、いくらなんでも（笑）。しかもホッペを真っ赤に塗りたくって（笑）。

D／いくらそういう格好してきても、こっちが見るのは原稿なんだから（笑）。

E／ウチ、パジャマ禁止！（笑）。

A／ついでにランドセルも禁止！（笑）。

C／そういう格好してて尚且つ漫画も面白いっていうんだったら最高だけど。

E／でも格好と漫画は違うんだよなぁ。そういう人に限ってつまらないの（笑）。なんでかなぁ。

F／とりあえずさ、どんな格好するのも自由だけれど、ちゃんと漫画描いてきてほしいよね。原稿用紙がどこに売ってるかわからないから、新聞広告の裏に描いてきましたっていわれたら、もうガックリするよ（笑）。

D／やっぱり漫画が面白いっていうのが大前提だよ。だた奇をてらった人って、よそに持って行くと「ガロにいけば」って言われてるんだろうなぁ（笑）。

F／実際そう言われて来る人多いね。でもいつも思うんだけれど、よそで「ガロに持っていけば」って言われたら、一応疑った方がいいかも。だってさ、本当に親身になっていってくれる編集者もいるけれど、見たら明らかに断る理由で言われている人っているもの。でも言われた本人は真剣だから。

C／何かさ、場末のキャバレーみたいだね、吹きだまりか、ウチは（笑）。

D／よそはそう言えても、ウチはもう言えないから、つらいもんがあるね（笑）。

F／でも入選して活躍してる人にそういう人はあまりいなかったね。奇をてらうより、漫画をかくことに貪欲だったから。すごくマジメですよ、みんな。

D／なんかさ、こっちがちょっと「ここはこうした方がいいんじゃないか」っていうと、足を投げ出して煙草の煙をブハーッて吹きながらニラむ人いるでしょ。そりゃ持ってくるときは、最高傑作だと思って持ってくるんだろうけれど、こっちはそういう作品を何本も見てるわけだから、何か光るものがないとダメなんだよね。

F／格好はどうでもいいけど、作品が独創的であって欲しい。

D／結局さ、表現って裏を返せば自己顕示だから、そのまま『俺が俺が』になってしまうとつまらない。そういう人によく言うんだけれど、漫画は映画を一人でつくるようなもんで、脚本から配役から美術から、何から何まで全部一人でやるわけでしょ。だからその人の今までの知識や経験が全部出ちゃうから、バカなもんはすぐにバカだってわかっちゃうから、あまり安易に描かない方がいいですよ、っていうの。

F／漫画って総合的な要素があるからね。だから、別に漫画を描くのがそれほど好きじゃないけどとりあえずやってみるか、っていうことではキツイと思うよ。

E／最近それがミエミエになってる人って多いね。だから話していても意外性がないんだよ。だから好きな作家のコピーみたいな作品も多いのかな。

D／あのさ、同じ人って二人はいらないよね。長井さんも言ってたけれどさ、その人の作品が掲載されるってことは、別の誰かがその時点で蹴落とされるわけだから。だったらコピーより本物のほうがいいもの、普通は。まあ、最初は好きな作家にどうしても絵が似てしまうってこともあるけれど、それは描き続けていれば自然に解消されることなんだけれど、最初から解消する余地がないくらい、コピーの人っているからね。そこらへんあまり安易に考えてほしくないよね。

F／あの、面白い漫画描いてくる人って、まず、話していてすごく引き込まれるところがあるよね。なんか魅力的なの。それに、

ある意味では図太いとこあるね。とにかく自分はこれでやっていくんだっていう。だって描けば常に批評がついてまわるし、匿名で誹謗中傷なんかを描いて来る卑怯者もすごくいるから、いちいち神経質になってたら、続けられないでしょ。それは見ててすごいな、て思うんだよね。この人達ってやっぱりタダ者じゃないって。

D／最近入選した人なんかでも、何回返されても、めげずに何度も書き直してきて、それでよくなった人っているしね。

◆ガロ編集部員。座談会は編集部６人で行ないました。（山中編集長は欠席）

ILLUSTRATION by C. SHIRATORI

E／とにかくさ、ちゃんと描いた漫画を持ってきて欲しい。お願いはそれだけだよ（笑）。それで面白ければなおいい。でもボールペンは禁止！（笑）。

D／描きかけも禁止！（笑）。

B／未熟でもいいから、ちゃんと描いてきて欲しい。枠線とかさ、いいかげんにひいてくる人いるし。

F／あ、でもそれ勘違いしてる人もいるかも。昔でいったらヘタウマみたいに。でもヘタウマって言われた人でも、ホントはみんなちゃんとかいたら物凄くウマイんだよね。

E／あ、それはね、何本も見てるからすぐにわかるよね。うまくてくずしてるのか、そうでないか。

D／そうでない人ってくずしてるんじゃないんだよね。最初からそれくらいしか描けないから。

F／やっぱりさ、くずすってセンスいるからね。本気でやったら難しいと思う。

E／それでストーリーの話になると「ストーリを破壊するのが自分の芸術だから」なんていったりする（笑）。一体どうなってんの？（笑）。

D／もうアドバイスの仕様がないよ、それって（笑）。オナニー見せられてるのと同じだよな（笑）。

E／今まで見た人の中で、一番インパクトがあった人ってどういう人がいた？

D／あの、一番驚いたのは、薄墨使ってるのかなって見たら、茶色なんだよ。で「これ何ですか？」ってきいたら「僕の血で描きました」っていう人いた。

一同／コワいよ、それー！（笑）

D／殺戮シーンか何かでさ、血を本当の血で描いてた。

F／でも印刷されたら何のメリットもないと思うけど。ただのかすれた黒にしかならないから。

D／神話を作りたかったのかな？　でもイヤだよね、血だなんて（笑）。

C／自分の体はもっと大切にしたほうがいいよ（笑）。

E／へー、そんな人いたんだ（笑）。

F／あのさ、東北から来た人で、妻とも離婚したし東京で一旗あげたい、っていうの。で、持ってきたのが詩でさ。それも完全な盗作で丸写し。でもすごく明るいの。「まーこれから群像で新人賞でもとって一発当ててですね」って（笑）。

E／当てる気はあるんだ。

F／でも当たらないと思う（笑）。妻と離婚っていうのもウソだと思うよ、きっと独身。でも「いやー、田舎じゃ自分みたいのは理解されないです、ワーハハハハッ」ってすごく明るい（笑）。

E／でもよく盗作だってわかったね。

F／それがさ、たまたま高校の教科書に載ってた詩だったの（笑）。

D／ちょっといい話だね、それ（笑）。

C／でも迂闊だよな、そいつ（笑）。

F／それでさ、うちは詩はやってないからって、近所の青土社紹介した（笑）。地図かいて渡してやった。

一同／『ユリイカ』に？（大爆笑）。

A／あとさ、ビックリしたのは持ち込み以前でね、電話で　お面見て下さい」っていう人いたよ。

一同／お面？（大爆笑）。

D／ウチ、お面禁止！　お面雑誌じゃないから（笑）。

E／お面って何それ？

A／だから「お面作ったんですけど見て下さい」って。で「ウチはお面は見てません。お面は載せられないから」って断ったの（大爆笑）。

D／断ってるアンタもおかしいね（笑）。

A／だって分からないもん。でもマジメな人だったよ（笑）。

E／ま、みんなさ、一生懸命なんだと思うけれど、やっぱり漫画を持ってきてほしいよね。漫画だったらいつでも見せて欲しいんだからさ。

D／それ、基本的なことだよね（笑）。

◆1995年8月18日
◆文責：編集部全員

日本の現代マンガは、質的にも量的にもきわめて高度な発達を遂げ、諸外国からの関心も高まっている。しかし、実作に比して評論・研究は著しく遅れ、各種マンガ賞がマンガの実情を必ずしも反映しなかったり、ジャーナリズムのマンガ論議が的外れであったり、という遺憾な現象もしばしば見られる。このような現状を憂慮し、マンガ評論・研究の深化と拡大をはかるため、マンガ評論新人賞を設立する。　一九九二年五月一日

★発先★〒151 東京都渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル8F ㈱青林堂「マンガ評論新人賞」係

第四回 マンガ評論新人賞募集

◆1：賞の種類と賞金

マンガ評論新人賞（五十万円）

同奨励賞（十万円）

佳作

各賞に人数の枠は設けない。また、本誌掲載の場合、賞金の他に規定の原稿料が支払われる。

◆2：応募規格

新人であること以外、年齢・性別・国籍等は一切問わない。新人とは、マンガ評論・研究の単行本を出したことのない者とする。ただし、自費出版はこの限りでない。マンガ隣接の文芸・映画・美術等の評論・研究の単行本を出したことがある応募希望者は、問合わせをされたい。

◆3：評論の対象・形式

現代マンガに対する未発表の評論・研究。種類や形式は限定せず、作家論、作品論、マンガ史研究、評論史研究、ルポルタージュ等を広く含むものとする。現代より前のマンガや外国のマンガに関するものも、現代マンガを考える上で有益なものは本賞の対象となる。

◆4：銓衡

銓衡委員会の合議による。各委員のマンガ論・マンガ観と対立する作品であっても、そのことによる銓衡上の不利益は一切生じない。

◆5：枚数・その他

四〇〇字詰原稿用紙で五〇枚前後。内容によっては二〇枚程度の作品も考慮する。ワープロ原稿も可。いずれも、日本語・縦書き、点字原稿は墨字訳を付ける。必要な図版類があれば、出典明記の上、コピーを貼付する。また、本文の後に、住所・氏名・電話番号・生年月日・最終学歴・職業を記した別紙を添える。応募は一人一作品に限る。応募原稿は返却されない。

◆6：締切り、発表

毎年十二月十日を締切りとする。結果は翌春「ガロ」誌上で発表される。

◆7：

本賞の存続

本賞の賞金および掲載作の原稿料は、呉智英「現代マンガの全体像・増補版」（史輝出版）の印税によってまかなわれる。同書の印税発生がなくなった場合本賞の継続が中止されることもある。

銓衡委員会（五十音順）

呉　智英　村上知彦　米沢嘉博

協力「ガロ」編集部

月刊GARO新人大賞 長井勝一賞募集

大賞…賞金10万円

佳作…賞金5万円

◆月刊『ガロ』は一九六四年の創刊以来、商業的には小さな規模ながらも、常に新しい才能を発掘し、漫画における新たな表現方法を開拓し続けています。『ガロ』からデビューされた作家の方々は、漫画という枠に留まらず、映画、文学、音楽、絵画など様々な分野で活躍される方も少なくありません。

その事実を鑑みれば、我々が考える『ガロ的』という概念も、やはり単に漫画というジャンルを越えたものではないでしょうか。

◆我々は、常に新しい才能を求めています。もちろん漫画作品として優れている事はもちろん、既成の漫画という表現を越える、後の幅広い活躍を予感させるユニークで独創性のある作品を募集します。

◆商業誌に未発表であり、漫画作品として完成されているものであれば、どんな作品でも結構です。ぜひ、長井勝一賞に応募下さい。

ガロ編集部

★応募要領★

①原稿枠内サイズは、天地273㎜×左右184㎜です。枠を越えて絵柄やベタを伸ばす場合は、枠より外に15㎜以上伸ばして描いて下さい。

②原稿は黒一色で仕上げて下さい。但しうす墨は不可ですので中間色はスクリーントーンなどを使用のこと。

③ネーム（せりふ）、ナレーションなどは必ず鉛筆で記入して下さい。スミベタやトーン上にかかるネームは原稿の上にトレーシングペーパーなどをかけ、該当箇所に鉛筆で記入して下さい。

④作品の最終頁の裏に、必ず住所、氏名、電話番号を明記して下さい。（ペンネームの場合は本名）

◆年齢・性別・国籍などは一切問わない。但し外国語作品には必ず日本語訳を添付すること。

◆原稿返却希望の方は、返信用封筒に該当料金分の切手を貼付の上自分の宛先を記入したものを作品に同封のこと。返信用封筒のないものは一切返却できない。

◆本賞の募集は随時行なっている。対象は本賞宛投稿作品、編集部への持込み作品、本誌入選作品などその年度に応募された新人の作品全てである。従って、一次選考通過作品は毎年一月の本選考まで、最大で一年間預る場合がある。

◆本賞の選考結果発表は毎年「ガロ」二月号誌上で行なう。

審査員長　長井勝一（青林堂会長）

〒151 東京都渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル8F ㈱青林堂「長井勝一賞選考係」

◆両賞共選考結果の発表は年一回、ガロ誌上で行ないます。お電話やお手紙でのお問い合わせは一切お断りさせて頂きます。…………編集部

月刊漫画GARO年間新人賞

長井勝一賞

受賞作品紹介

◆第一回長井勝一賞【対象期間1992年】

★選考対象作品数…600本（投稿及び持込み・入選作品含む）
★最終選考対象作品…7作品
★大　賞　該当作品無し
★佳作入選　秋山亜由子『一人娘』（ガロ92年12月号入選）
★佳作入選　白（SHIRO）『夢みるように眠りたい 完結篇・将軍塔の謎』

◆第二回長井勝一賞【対象期間1993年】

★選考対象作品数…586本（投稿及び持込み・入選作品含む）
★最終選考対象作品…8作品
★大　賞　該当作品無し
★佳作入選　花くまゆうさく『狂い咲きサンダーロートル』（ガロ93年11月号）
★佳作入選　魚喃キリコ『Color Color』（ガロ93年12月号）

◆第三回長井勝一賞【対象期間1994年】

★選考対象作品数…514本（投稿及び持込み・入選作品含む）
★最終選考対象作品…6作品
★大　賞　該当作品無し
★佳作入選　古屋兎丸『Palepoli』（ガロ94年9月号入選）
★佳作入選　東陽片岡『やらかい漫画』（ガロ94年6月号入選）

古屋兎丸

花くまゆうさく

秋山亜由子

東陽片岡

魚喃キリコ

白（SHIRO）

長井勝一インタビュー

「ホントに好きじゃなきゃ漫画家にはなれないよ」

1975年頃の長井会長

◆約30年もの間、毎日のように投稿作家を見続けてきた長井会長が、久々に誌上でアドバイス。漫画家を志す若者よ、刮目して読めっ!!

現在でも投稿者が多いんですが、長井さんに原稿を見て欲しい、という人が多いので、今回は誌上で投稿作家へのアドバイスをお願いしたいと思いまして。

長井 最近はどう？ 熱心な人は来るかね？

勿論熱心な人もいますが、とりあえず漫画家にでもなってみようか、という人も来ますよ。それで「どうしてガロに投稿しようと思ったんですか？」と聞くと「いや、ガロは読んだことありません」って平然と言います（笑）。それで見ると、レポート用紙か何かに、ボールペンで殴り描きしたようなものを出して、それが原稿だって言うんです（笑）。

長井 困ったねぇ（笑）。ホント気軽なんだね。そこらへんにお菓子を買いに行ったり弁当買いに行ったりするのとは違うよね（笑）。漫画を描こうとするなら、将来漫画家になりたいっていう原点があるワケなのに、それもないで、漫画もキチッと描いてない。それで出版社に訪ねてこられたって、ガッカリするしさ、正直いってバカにするなって思うよなぁ。やっぱりどこの出版社の社員も、プライドてえのがあるからね（笑）。

まず、自分が投稿しようとする雑誌くらいは見て欲しいですよね。

長井 ある程度読んでさ、その雑誌がどういう方針でどういう方向に向かっていて、どんな読者層を抱えているのか、くらいは研究しないと。どこの雑誌にだってそれぞれ特徴があるんだから。そういうのもわきまえないで、メチャクチャに来たって、相手にできないよなぁ（笑）。

そういう人は昔からいたんですか。

長井 いやあまりいなかったよ（笑）。どんなに未熟であっても一応漫画を描いてきたよ。それに真剣な人は一目でわかるからね。もうブルブル震えて緊張してるから。それだけ自分が熱を入れてかいたものだからね。

長井勝一
INTERVIEW

一年以内のものだったら一本見りゃもう充分。

一本描くのに、一日や二日の作業じゃないですからね。

長井　長いことかかってやっと完成させた作品だからね。でもボールペンで描いてこられちゃかなわねえなぁ。冗談じゃねえよな（笑）。

――それで「見て下さい」といわれても、思わず顔の方を見てしまう（笑）。

長井　問題はさ、ちゃんと描けるか描けないかにあるんだから。やっぱり載せるからには、経験が深いか浅いかは別として、漫画家として載せるんだからな。要するにこっちは漫画家になれるかどうかを見極めるんじゃないのね。漫画雑誌に載せられるかどうかを見るんだから。その先どうなるかはその人次第だしね。それにどんなジャンルの漫画にしろ、キチッと描くという一番しんどい所を抜いちゃって、それで「どうですか？」と言われてもなぁ、どうでもないもんな（笑）。漫画家なんて誰でもそう簡単にできる商売じゃないんだよ。

――あと、一度に何本も作品を持って来る人もいますけれど、長井さんは「一本みればわかるから、あとは見せん」ってよく怒ってましたよね（笑）。

長井　作品っていうのはさ、一年くらいじゃそう変わらないんだよ。だから俺は「いつ描いたの？」って聞くのね。で、一年以内のものだったら一本見りゃもう充分。一年以内に描いたものでそれが雲泥の差だったら、そら大天才でしょ。でも大天才なんて滅多にいないから（笑）。でもね、こういう場合もある。一本見て「あ、いいね、だけどちょっと物足りないな、それは何か？」と思ったとき、もう一本を見せてもらって「ああ、あなたの欠点はこういうところにあるんだ」って捜し出せることもある。でもね、一本見ればわかるワケ、粗方。

――じゃ、投稿する人は、自分で一番いいと思うものを選んで来るのが一番ですね。

長井　そういうこと。問題は量じゃないからね。質だから。だからどうやったら質のいいものを描けるか、いろいろ考えて勉強しなきゃいけないよね。漫画をやるんだってさ、例えばAとBという人を登場させて絡み合わせるとしたら、それぞれの家族構成や、どんな町のどんな家に住んでいるかとかさ、高校生ならどんな学校に通ってて、同級生はどんなやつとか、そういう基盤をキチッと開いておかなきゃいけないでしょ。それからストーリーを作っていくワケだから。まず固めるものをちゃんと固めて、という基本的な作業は、漫画家はみんなちゃんとやってるんだよね。

――設定は基本ですからね。

長井　俺ね、（白土）三平氏に関心したのはさ、ある農民の娘が美人で、家老の息子と恋仲になって、でも殿様に犯されて、気が狂って死んじゃうって話を描いたとき、娘の父親の鼻を「ちょっと鷲鼻ふうにしとこうか」って言うんだよな。昔は美男子だったってわかるようにね。要するに美男でなければ美女は生まれないってことだよね（笑）。そこまで考えるわけだよ。そうでないと話の筋が嘘っぽくなってしまうって言うんだよな。そういう所も疎かにしてないのね。でないと長編なんかを描く場合困るから。

――そうなると、当然資料も必要になってくるワケですよね。

イラスト：渡辺和博「ハードキャンディ」より

長井　膨大な資料がいるね。でも気をつけなきゃいけないのは、それにのめり込んでしまうと、抜け出せなくなるんだよな（笑）。でもね、資料と言ったらその大家は水木（しげる）さん。あんな立派な人はいないよ。物凄い量の資料を持ってて、しかも各資料がどこにしまってあるかっていう記憶力もすごいの。ただ集めてるだけじゃないんだよ。

――適当に描いてると思われがちですが、みんなちゃんと調べているんですよね。

長井　やっぱり勉強することも才能だからな。だからいい加減なことかいてくるやつは勉強する才能もないんだよ（笑）。才能のある人は、何かに関心を持つと、探求心が強いから、どんどん詳しくなっていくでしょ。そういう入れ込みがないとダメだね。それに、関心があることだから、本人もやってて楽しいんじゃない。好きこそものの上手なれでさ、やっぱり好きじゃないとダメだと思うね。

――長井さんは投稿者へのアドバイスとして、よく「映画を観なさい、本を読みなさい」と、盛んにおっしゃってましたけれど。

長井　要するにものを作り出すのは感性の問題だからね。感性を磨け、ということですよ。映画でも、ここがよかった、あそこがよかった、て観ていると、段々鋭くなってくるからね。例えば骨董なんかもそうなんだけれど、大きな骨董屋に弟子入りすると、毎日毎日本物を見せられるんだって。偽物は絶対に見せないらしいよ。壺なら壺、雪舟なら雪舟をね、一日中ジーッと見てるの。そうすると、偽物が来て、それがどんなに上手く出来てても、どこか違うって一目でわかるようになるらしいよ。いいものばかり見てるから、いつのまにか偽物は寄せ付けないようになってるんだよね。

――なるほど。

長井　勘だよね。感性は世間で言う教養だから。自分なりに受け止めて、それを咀嚼して栄養として吸収できるかどうかだからね。だからいいものを作るには、自分自身がよくなっていかないと、いいものはいつまでたってもできないワケ。だからね、自分の感性を高めるために映画を観たり本を読んだりしなさい、て言ってたのね。接しているうちに、どんどん面白いと思うことが発見できて、そうすると、人間、貪欲になってくるからね。ある監督に興味を持ったら、じゃ、ほかの作品も観てみよう、ってなるでしょ。それを繰り返していると、もっともっと興味が深まって、力がついてくるでしょ。そこまで行くには感性の問題が大きく拘わってくるから。それは漫画であれ骨董であれ、なにか一つものにしようと思ったら、必要なことですよ。

――今は漫画の市場も拡大してるし、漫画家を希望する人が後をたたないので、そういう場所で仕事をしようと思ったら、たくさんの人の中から選ばれなきゃいけないわけですから、大変ですよね。

長井　大変だよなぁ。だから才能のないやつは、もうどうにもならんよ。やっぱりね、才能のある人は、どっか一つ他人より抜きん出ているものを持ってるよね。同じ漫画家でも皆どこかそれぞれ違ってさ。でもそれぞれ感性は鋭いね。

――同じものを見ても、人が気が付かないような所をよく見てますしね。

長井　見えないのは感性が低いからだよね。だから目に触れてこないんだよ、肝心なところが。見えない人が見るとただの石ころなんだけれど、見る人が見れば玉なんだよな。昔からいうだろ、〝目のより所は玉〟ってさ（笑）。で、その目は鋭いんだよ。興味あるものには集中して見てるってことでしょ。

――だから、逆に無駄なものはすぐにわかるんですよね。

長井　そうそう。だから無駄なことはしなくなるんだよ。

――若い人の中には、何に興味をもったらいいのか、なかなか定まらない、という人もいるんですが……。

SPECIAL EDITION

長井勝一
INTERVIEW

あまり焦らない方がいいよ。だって俺だってさ、ガロ始めたの43の時だもんな。

1991年 水木しげる氏と

長井　深い意味でいったら、人間ってある年齢になるまでは、なかなか思い定まらないもんだよ。あーでもない、こーでもない、っていろいろ試行錯誤してさ。だからあまり焦らない方がいいよ。だって俺だってさ、ガロ始めたの43の時だもんな。だから30年たったら70になっちゃったんだよ（笑）。だから、俺よく言うんだよ、「慌てるな」って。気がついてからコツコツ始めたって60くらいまでには何とかなるんだから（笑）。

　なんだかえらく重みのある言葉ですね（笑）。

長井　いやホントだよ。20年やったらなんらかの形になってくるんだから。だから今まで好きなことやってたから、これからは一つに絞って、キチッとやっていこうて、それだけでいいんだよ。自分の決めた仕事を精力的にやればいいの。でも漫画家とかは、いくら一生懸命やっても才能がなきゃダメだけれどな（笑）。

　それに、世の中に作品を発表するワケですし、また周りがみんなライバルになってしまいますから、精神的にもキツイ仕事ですよね。

長井　それはでも仕方ないよな。自分で選んだ仕事だし、好きなことで飯食っていける分、それなりにキツイことは覚悟しなきゃ。だからこの世界で食ってる人はみんなそれなりに強いよね。世間でどうこう言われたって、頑張ってやってるよ。そんなことみんないちいち言わないけれど、並大抵では乗り切れない道を歩んで来てるよね。

　それに漫画家っていうのははたで見てるよりずっとジミな仕事ですし。基本は一人でコツコツと、ですから。長井さん、よく「あなたは一日中机にむかうだけの忍耐力がありますか？」って聞いてましたよね（笑）。

長井　ホント、根気がないとできない仕事だからさ。だからやっぱり基本的に好きじゃないとできないよ。ただ人気者になりたいとかじゃねぇ（笑）。それに、描いたものを他人が読んで「ああ、面白い」って思わせなきゃいけないしさ、感動させなきゃいけないんだから、大変な仕事だよ。よくさ、やたらデカいテーマで描いてくる人いる

でしょ。いくらテーマがデカくたって、中身がスカスカじゃ面白くないてえの。それで「どうですか?」て聞かれたってなぁ、結局漫画って全体的なことなんだから申し訳無いけど「面白くない」としか言いようがないんだよな（笑）。

──あと、投稿者からよく相談されるんですが、友達なんかに見せると「誰々のマネだ」といわれて気にしてる、という人がいるんですね。

長井　マネは悪くないよ。その作家が好きだからそうなるんだから。ま、全部マネはダメだけどさ、それこそ盗作になっちゃうからさ（笑）。

──あまり気にすることはないですよね。

長井　ないない。ずっと描いているうちにそこから抜け出せるんだから。セミと同じだよ（笑）。だってみんなマネから始まるんだからさ。手塚（治虫）さんだってディズニーのマネから始まったし、手塚さんが出てからは、みんな手塚さんのマネだったしさ。要するにお師匠さんだから。で、お師匠さんの絵を見て勉強して、それで後からちゃんと自分の絵柄が出来てくるもんなんだよ。自分の作品をよくしようと思ったらさ。だから友達に言われても、あまり気にすることはないと思うな。

──要は自分が漫画を描く意味があるかどうかってことですよね。ホントに好きで、なんとかこの世界でやってみたい、という気持ちがあるかどうか、ということですね。

長井　そうだよ。そのくらい強い気持ちじゃないと、最初からやらない方がいいよ（笑）。昔、貸本時代の頃なんかさ、みんな家出して漫画家になったんだから。今とは違って、当時は漫画家になるなんていったら乞食になるのと同じだったからな。

──勘当ものだったんでしょ（笑）。

長井　そうそう（笑）。言ったら怒られるからさ、黙って家を飛び出してね。そういや、むかーしさ、会社に「お宅にウチの息子が行くはずだから、来たら捕まえておいてくれ」ていう電話もあったんだよ（笑）。「今、兄貴と伯父さんがそっちに向かってるから、つくまで捕まえておいてくれ」って。セミじゃあるまいしなぁ、あんときゃまいったよ（笑）。でもそういう時代だったんだよ。昔は漫画家は食えなかったからね。だから食う食えない以前に、好きだからなったんだね。ただ描きたい、本に載りたい、ただそれだけの情熱で当時の少年は家を飛び出してたんだよ。

──もう無我夢中ですね。

長井　だからさ、そういう人達が集まると、「今度は誰々がこういう風に描いてた」とかよく話てたよ。「さいとうたかをがこんな風に描いてた」とかさ。こっちなんか聞いてると「たいして違わないじゃないか」なんて思うんだけど（笑）。でも彼らにすれば新しい世界が広がっていくわけだから、熱心になるんだね。

──そういう強い情熱を持っている人はすぐ分かりますよね。

長井　うん、わかるわかる。目が真剣だし、こっちの話も真剣に聞いてるよ。殴り書きを平気で持ってくるような困ったやつとは全然違うね。

──まずそこで分かれますね（笑）。

長井　そうだね、そして好奇心と探求心が旺盛でさ、ある意味じゃどこか図太くないとダメだよな。たとえペンネームだとしても、自分の名前を出して仕事をするわけだから、どんなジャンルの漫画家であっても、潰れずにやり続けるということが、どんなに大変なことか、そしてそれを自分がやる気があるかどうかが問題なんだよ。この職業をあんまり軽く考えないほうがいいと思うよ（笑）。

──そうですね（笑）。それにガロは、まぁ、ちょっと特殊な雑誌ではありますから、投稿するときはそのことも踏まえてこられた方がいいですね。

長井　ちゃんとガロを読んでね（笑）。俺は昔から、ガロは実験の場になれば、と思っていたからさ、これからも若い人にどんどん実験して欲しいよね。まだ青い果実がさ、どんどん美味しくなっていくのを見ているのは楽しいしね（笑）。

1992年 年末、大掃除の日に

●収録／1995年8月8日／文責・編集部

SPECIAL EDITION